

東北信地域糖尿病療養指導士の日糖協加入について

東北信地域糖尿病療養指導士育成会会長 仲 元司

東北信地域糖尿病療養指導士（以下 L-CDE）育成会は 2008 年の設立以来、日本糖尿病協会（以下日糖協）の会員であることを認定の要件とはしてきませんでした。しかしながら以下に述べる理由から、先日の理事会で東北信 L-CDE 全員に日糖協会員になっていただく方針に転換することとしました。これを受けて今年度の東北信 L-CDE 受験者、更新者からは日糖協会員であることが認定要件として追加されます。

日糖協は 2013 年に公益社団法人化されました。日糖協の HP にはこう紹介されています。「患者さん、医師・歯科医師、コメディカルスタッフ、市民・企業などで組織され（中略）全国に会員の患者と医療スタッフで作られた約 1,600 の糖尿病「友の会」と、47 の都道府県糖尿病協会があり・・・」。設立当初は、「患者会（友の会）」の意味合いが強かった日糖協ですが、現在は医療スタッフが会員の過半数を占めています。日糖協は公益社団法人化してからは特に「患者会」から「CDE 中心の会」へと移行してきています。その背景にあるのは、各地の友の会（患者会としての性格を強く残す）の高齢化、会員の減少、役員の担い手の減少といった組織の弱体化です。公益社団法人は社会の利益となる事業を企画・遂行しなければなりません。「患者会」だけでは公益事業を成し得ない、このまま友の会中心の運営をしていては日糖協自体が立ち行かなくなってしまう、その危機感から CDE 中心の会として再生させようということだと思われます。

実際にその事業内容を見ると CDE 中心の事業が増えています。日本糖尿病協会の機関紙「さかえ」の発行や各種イベントの開催に加え、今年で 6 回目を迎える、毎年 7 月に京都で行われる日本糖尿病療養指導学術集会の開催（今年は医師ではなく初めてコ・メディカル＝看護師が会長を務める）、CDE のための雑誌「DM Ensemble（アンサンブル）」の発行、CDE に対する各種表彰など、明らかに CDE の育成や連携を志向したものが増えて来ています。全国 46 都道府県に L-CDE の団体を設立させるための助成金事業もその一つと言えます。

であれば、日糖協の下部組織である長野県糖尿病協会（以下県糖協）もまた CDE 中心の会として生き残る他ないのではないのでしょうか。潰してしまうのは簡単ですが、そうすると各地で患者さんのための啓発活動を担う組織が無くなってしまいます。それは極力避けたいのです。東北信 L-CDE 育成会の会長である私は県糖協でも要職に就いており、双方の将来が希望あるものとなることを強く願っています。そのためには全国的な流れである日糖協と L-CDE の一体化の流れに、我々も乗って行くことが必要ではないかと考えています。

皆さんには友の会に限らず、地域住民の啓発活動や糖尿病関連のイベントの企画・運営など糖尿病協会の事業に L-CDE として積極的に関わっていただきたいと思います。目の前の患者さんの療養を支援することが L-CDE の本来の業務ではありますが、自分たちの所属する地域全体を見渡して住民のための糖尿病予防活動を展開することもまた L-CDE の大切な使命ではないのでしょうか。

以上の点をご理解いただき、所属施設に友の会がある L-CDE の方は友の会に入会頂き、友の会がない方は日本糖尿病協会のホームページより本部会員になっていただき（同封の申込書で郵送または FAX でも入会可能。）、認定の要件を満たして頂ければと思います。宜しくお願い致します。

以上